

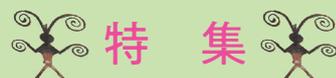
Thematic Exhibition

Living on the Beautiful Island of Formosa

Historical Artifacts of the Indigenous Peoples of Taiwan

2026年3月10日(火)～5月31日(日)

東京国立博物館 平成館企画展示室



フォルモザ

美しい島の
豊かな暮らし
台湾の原住民族の資料

台湾は、かつて「イラ・フォルモサ (Ilha Formosa)」とよばれていました。それは大交易時代のポルトガル人が感嘆した「美しい島」という意味のポルトガル語です。台湾島の中央には3000メートル級の山やまが連なるので、船から眺めると、海のなかに巨大な山がそびえているように見えました。当時、すでに台湾には多くの人びとが居住していました。さらにオランダ東インド会社や中国・明の遺臣である鄭成功 (1624~62) の進出を経て、17世紀には中国大陸南部から漢民族が海峡を渡って本格的に移り住むようになりました。この過程でいまの多民族社会・台湾の素地が形成されました。

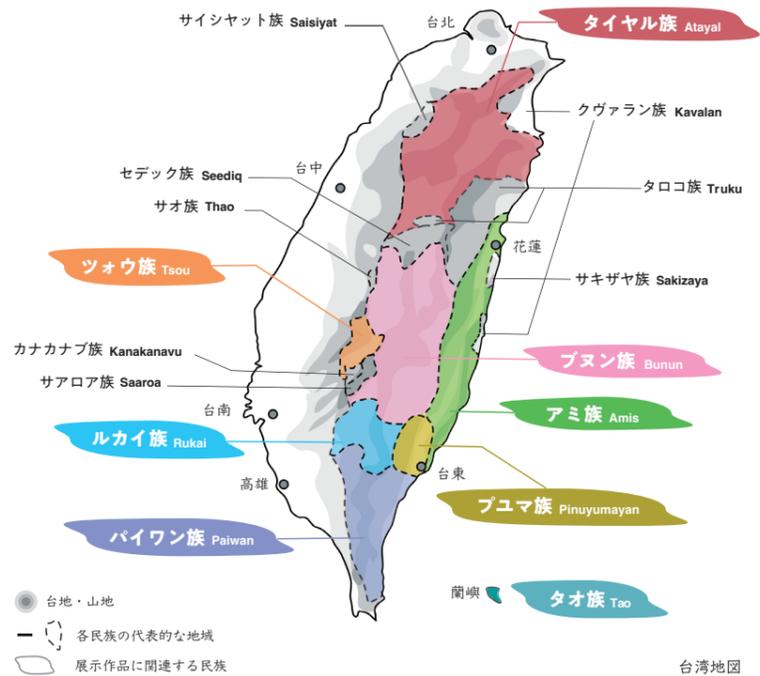
古くから台湾島と周辺諸島に居住していた民族は、みずからを「原住民族」と総称しています。台湾の原住民族はオーストロネシア語族に属する複数の民族集団で、太平洋に広がる島じまに暮らす人びとと同系統であるとされています。現在、台湾政府は言語や生活文化の差異によって16民族を認定しています。

本特集では、東京国立博物館が所蔵する器物や衣服を通し、台湾原住民族の多彩で豊かな生活様式を紹介します。

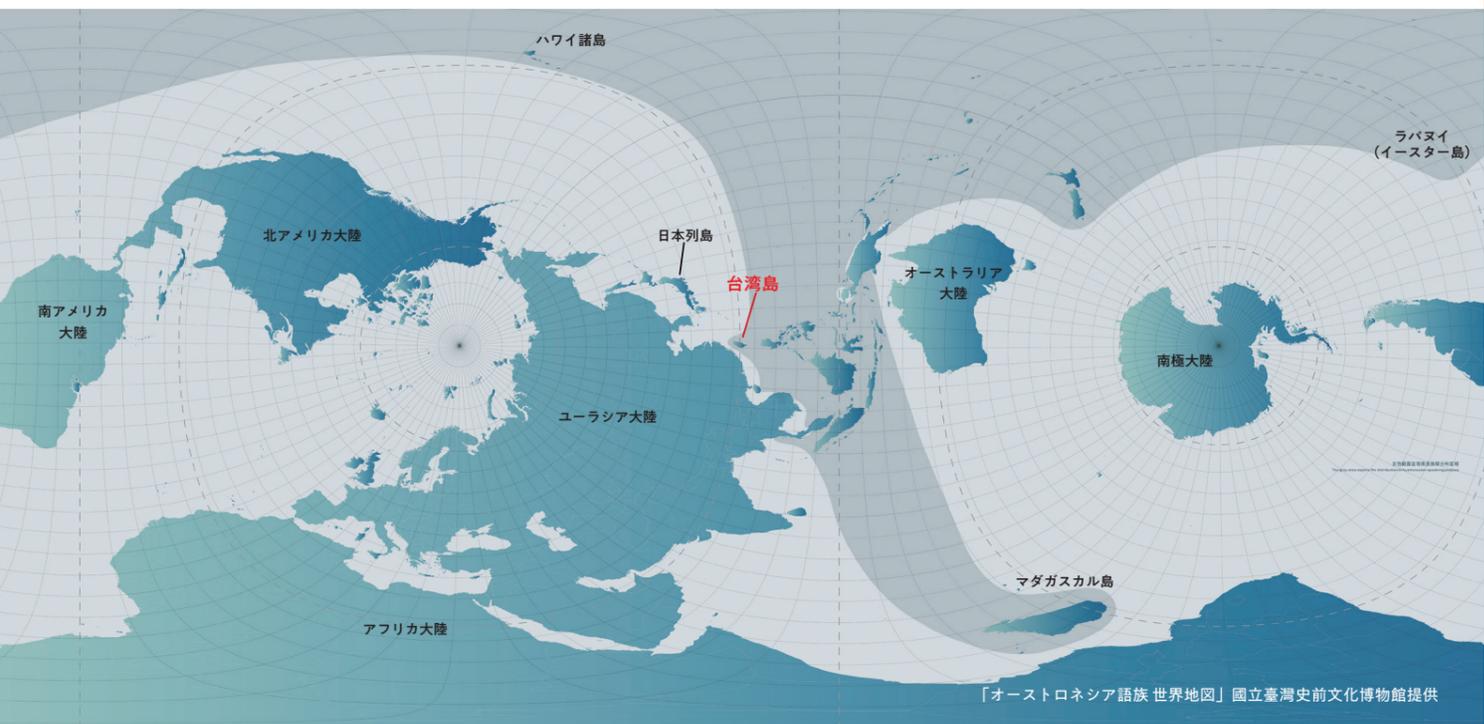
The island of Taiwan was once known as "Ilha Formosa," a name given by Portuguese sailors to mean "beautiful island" when they passed by in the 16th century. At the time, many people were already living in Taiwan. Following the expansion of the Dutch East India Company and the conquest of the general Koxinga (1624-1662), Han Chinese people began to migrate to and live in Taiwan in the 17th century.

The different peoples who had already been living on Taiwan island and the surrounding archipelagos called themselves "indigenous peoples"—presently, the Taiwanese government officially recognizes 16 indigenous ethnic groups. The current exhibition introduces the abundant lives of Taiwanese indigenous peoples through the objects in the Tokyo National Museum's collection.

The Museum would like to express its sincere gratitude to The Ai Thani Collection Foundation for generously supporting the research conducted for this thematic exhibition.



2026年現在公認されている16民族の代表的な居住範囲です。



「オーストロネシア語族 世界地図」国立臺灣史前文化博物館提供

紀元前の太古に、台湾原住民族と言語的に連なるオーストロネシア語族の人びとは、台湾から海を越えて東南アジアや太平洋の島じまへと渡り、ハワイ諸島やラバヌイ (イースター島)、マダガスカル島にまで及んだと考えられています。



木皿 Dish TK-456

ブヌン族 Bunun people
南投県仁愛郷

木匙 Spoons TK-298

ブヌン族 Bunun people
南投県信義郷

木匙は先端から把手まで丁寧に作られています。木皿は内面は平滑に、外面は上部を荒々しく、下方は穏やかに仕上げられています。(猪熊)



彩文弁当箱 Lunchbox TK-517

プユマ族 Pinuyumayan people
台東県台東市

プユマ族の木工芸は、鮮やかな色彩と丁寧な施文に特徴があります。これらは特別な機会に使用されたものでしょう。(福島)



彩文杓子 Ladle TK-497

プユマ族 Pinuyumayan people
台東県卑南郷利嘉村

食べる 祭る



蒸籠 Steaming Basket TK-473

アミ族 Amis people
台東県台東市

餅を作る蒸し器。丸太を削り貫いて器体を作り、内側には竹を並べて編んだ簀子を敷いています。(猪熊)



(内側)



水壺 Water Jar TK-643-1

タオ族 Tao people
台東県蘭嶼郷

水を汲むための壺。把手が付いた籐の籠に入っているのので、持ち運びに便利です。(猪熊)



連杯 Connected Cups

19世紀後半 TK-94 磯貝静蔵氏寄贈

ルカイ族 Rukai people 台湾南部

結婚式などの祭礼に際し、立ち並ぶ二人が柄を片方ずつ持ち、同時に酒を飲むときに用います。(福島)



①

②



③

草幣 Ritual Rods TK-714

籐酒漉 Strainer for Alcohol TK-689

竹筒杯・瓢杓 Ritual Cups TK-713

ツォウ族 Tsou people 嘉義県阿里山郷

収穫祭で用いる道具。草幣は、植物繊維を垂らした祭具です。籐を編んだ器で酒を漉し、瓢箪を切った杓で酒を汲み、竹を割った杯に入れました。(猪熊)



それいぞう
祖霊像 Ancestor Spirit
20世紀 TK-3534 田中泰雄氏寄贈

パイワン族 Paiwan people 台湾南部

家屋の扉に刻まれた祖霊の浮彫彫刻。とくに頭目や貴族の家屋には、多彩な木彫がほどこされています。(福島)



たんい たんくん
短衣・短裙
Short Shirt and Short Skirt TK-528

ルカイ族 Rukai people
台東県卑南郷東興村

ルカイ族の男性は、短い上衣に巻きスカートという動きやすい装いをします。身分により刺繍の紋様が異なり、このスカートには百歩蛇を略した三角紋があるので、貴族階級の衣服でしょう。鞆の真鍮の飾りで人物を表わした赤漆塗りの刀は、儀礼用の華やかな一振りです。(廣谷)



はいどう
佩刀 Sword TK-529

ルカイ族 Rukai people
台東県卑南郷東興村

(表面部分)

住む



じんめんぼり いす
人面彫椅子
Chair with Human Faces TK-566

ルカイ族 Rukai people 屏東県三地門郷

背面と腰かけ部分の正面に人面を彫っています。背もたれの部分を残し、丸太を刀で彫った贅沢品です。(福島)



さいもんでんれいすず
彩文伝令鈴 Bell TK-488

プユマ族 Pinuyumayan people 台東県台東市

集落内で情報を伝える際、伝令役は腰に独特の装飾をほどこした鈴をつけて走り、その音で伝令の到達を告げました。(福島)

着る飾る



うんびょうがわころも
雲豹皮衣 Vest TK-238

パイワン族 Paiwan people 屏東県獅子郷

雲豹皮衣は貴族の、とくに頭目の礼服です。正面は毛織物で、首を狩った人物の姿を表わす意匠とみられます。(福島)



とうがぶ
① 藤靑 Helmet TK-3345 大和岩太郎氏寄贈

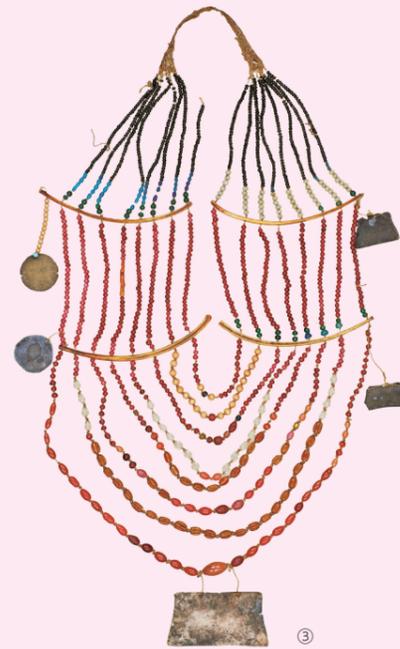
とうよろい
② 藤鎧 Armor TK-3344 大和岩太郎氏寄贈

むねがざり
③ ガラス胸飾 Necklace TK-617

かたかけしきじょうい
④ 肩掛式上衣 Shoulder Robe 19世紀後半 TK-24 成田安輝氏寄贈

こしまき
⑤ 腰巻 Skirt 19世紀後半 TK-25 成田安輝氏寄贈

タオ族 Tao people 台東県蘭嶼郷



③



④⑤

タオ族の男性は死者の霊の災いを恐れ、身を守るために藤や魚皮製の鎧靑を身につけました。タオ族の女性は、袖なしの衣や巻きスカートに、さまざまな装身具を身につけます。銀板とガラスが連なる胸飾は、母から娘へ受け継がれるもの。すっきりとした色調で綿密な地紋を織り出した衣によく映えます。(廣谷)



⑥

とうぼう
⑥ 藤帽 Hat TK-589

ちくかんみみかざり
⑦ 竹管耳飾 Bamboo Tube Earrings TK-596

ほうい
⑧ 方衣 Vest TK-583

しゅうどう
⑨ 袖套 Sleeve Covering TK-586

むねかけ
⑩ 胸掛 Chest Covering TK-585

かたかけ
⑪ 肩掛 Shoulder Robe TK-582

タイヤル族 Atayal people
新北市烏来区



⑧⑨⑩⑪

タイヤル族の男女は、日常的に竹管の耳飾を身につけます。衣服は、芋麻製の方衣を基本に、その時どきに応じて袖套や胸掛、肩掛をまといます。また、釦飾りがついた帽子や胸掛は、出草(首狩り)に成功し、祖霊に認められた勇士に着用が許された特別な装いです。(廣谷)



南北に山脈が走る台湾では、多くの原住民族がそれぞれに、山の恵みとともに暮らしてきました。

パイワン族の集落近くの渓谷 (2023年、屏東県三地門郷隘寮溪)



佩刀 Machete TK-578-2

タイヤル族 Atayal people
台中市和平区

籐鞆 Bag 19世紀後半

TK-49 越智元雄氏寄贈

タイヤル族 Atayal people
台湾北部

山野での作業や狩りに刀は必須。鞆には月桃の葉で肉やもち米を包んだお弁当を入れることもありました。(廣谷)

山の暮らし

きぼうでわ 牙腕輪 Bangles TK-687

ツォウ族 Tsou people
嘉義県阿里山郷

腕輪は、猪の牙で輪を作り、織物や髪を飾ります。多数の猪を狩ると付けることができ、腕輪の数は狩猟の功績を示しました。籐を四角く編んだ背負籠には、柔らかく編んだ帯が付き、この帯を頭に当てて背負います。背負籠には円錐形や方形があり、方形のほうで重いものを運びました。(猪熊)



籐背負籠 Basket TK-698-1

ツォウ族 Tsou people
嘉義県阿里山郷

おもに台湾の平野部には平埔族と総称される人びとが、東岸地域にはアミ族やブユマ族などが暮らしています。



平地の暮らし



竹水筒 Water Container TK-515

ブユマ族 Pinuyumayan people
台東県卑南郷

耕作中の飲料水携帯器具。竹の一節を利用し、籐製の把手をつけています。(福島)



長裙 Long Skirt TK-467

アミ族 Amis people 台東県台東市

華やかな生地や形状は、漢民族との交流によるもの。アミ族の豊年祭ではこのスカートで踊ります。(廣谷)



潘敦仔像 (模本) Portrait of Pan Dunzai (Copy)

20世紀初頭、原本：乾隆35年(1770) A-9910 台湾

敦翁行樂図 (模本) Pan Dunzai on an Outing (Copy)

20世紀初頭、原本：乾隆12年(1747) A-9909 台湾

海の暮らし



漁船模型 Fishing Boat (Model) TK-651

タオ族 Tao people 台東県蘭嶼郷

船首と船尾が跳ね上がるタオ族の漁船の模型。神話の人物や目をかたどる円文などが彫刻され、赤・白・黒で彩色されています。「船の目」は邪気を払うもので、漁と航海の安全に欠かせません。釣工具箱は、釣針や糸を入れる箱。木材を半分に分けて、内側を割って作ります。(猪熊)

タオ族の船と海岸 (2024年、台東県蘭嶼郷)



釣工具箱 Fishing Tackle Box TK-656

タオ族 Tao people 台東県蘭嶼郷



海で隔てられた孤島には、本島とは異なる海洋文化が伝わります。

交易 島の中、島の外

台湾の原住民族は、古くからさまざまなかたちで他(外)の民族との接触がありました。蘭嶼に暮らすタオ族は沈没船から銀貨を得ると、増場で溶かして加工しました。その製法は言語・地理的に近いフィリピンから伝わったとみられています。また、北部山地に住むタイヤル族は、苧麻に多量の貝珠(貝製ビーズ)を連ねた衣を珍重し、貨幣として扱いました。その貴重さは、山地では得られない素材であることによります。じつは江戸時代に現在の北海道から漂流し、台湾東岸のアミ族の村にたどり着いた漁師たちがいました。帰国時の証言をまとめた『漂流台湾チヨブラン島之記』(文助口述・秦貞廉編、文化6年(1809))に、アミ族がシャコガイから削り出した貝珠を、タイヤル族の「虎皮」や「麻布」と物物交換していたことが記されています。(廣谷)

銀腕輪 Bracelets TK-614

タオ族 Tao people 台東県蘭嶼郷



貝珠付腰巻 Waist Wrap with Shells TK-1317 山田鏡之助氏寄贈

タイヤル族 Atayal people 南投県仁愛郷

タイヤル族 Atayal people

タイヤル族は、台湾北部から中部の山岳地帯に居住してきました。巨岩から生まれた男女を民族の起源とする伝説をもち、先祖の教え（ガガ）を守り、祖霊を祀ります。男性は他集落との戦いに勝ち、女性は織物に習熟すると、成人の証として顔面に刺青を施しました。

ブヌン族 Bunun people

ブヌン族は、台湾中部の高山地帯に居住し、焼畑農耕を営んできました。11月から12月に行なう粟の播種祭では、男たちが豊作祈願の合唱をします。その合唱は、少しずつ異なる音階を重ねることでハーモニーが響くもので、その響きが美しいほど豊作になると信じられています。

ツォウ族 Tsou people

ツォウ族は、台湾中部の南投県から南部の嘉義県阿里山あたりに居住してきました。クバとよばれる集会所で、男性は訓練・会議・社交を行ないました。ツォウ族の竹筒飯は、節付きの竹筒に濡れたもち米を入れてあぶったもので、山中で狩猟をする際などには、たくさん携行しました。

パイワン族 Paiwan people

パイワン族は、台湾南部に居住し、石板を積み重ねた家屋で暮らしてきました。陶壺・ガラス玉・青銅刀の三つを家宝とする習俗があります。その社会は、貴族と平民を区別する階級社会です。貴族は、百歩蛇という毒蛇を民族の象徴として神聖視し、工芸品には蛇あるいは鱗の文様を表わします。

ルカイ族 Rukai people

ルカイ族は、台湾南部に居住してきました。パイワン族と類似する社会や文化をもち、石板を積み重ねた家屋を建てました。百合の花を神聖視して、民族の象徴としています。頭目の衣服には百歩蛇・太陽・人頭・壺など、貴族の衣服には人物や蛇の文様を用いることが許されました。

アミ族 Amis people

アミ族は、台湾東部一帯の広範囲にわたって居住してきました。吃草民族（草を食べる民族）といわれるほど、植物に関する知識が豊富で、何百種類もの野草を見極めて食用・薬用に使い分けています。毎年、粟の収穫後には、祖霊を迎え、歌い踊る豊年祭を行ないます。

プユマ族 Pinuyumayan people

プユマ族は、台湾南東部の平野部を中心に居住してきました。男性は年齢階層ごとのグループに分かれ、12歳、13歳頃になると、集会所に入って狩猟などの訓練を受けました。通過儀礼として、少年期には一緒に育った猿と別れる猿祭があり、青年期には山で狩猟技術を受け継ぐ大狩猟祭があります。

タオ族 Tao people

タオ族は、台湾島の南東沖の蘭嶼という島に居住してきた海洋民族です。タロイモ栽培のほか伝統的な木造の船に乗って、漁業を行なってきました。春に黒潮に乗ってトビウオが現れる時期には大漁を祈り、新たな船を作れば進水を祝い、夏には豊漁を感謝する祭礼を行ないます。

平埔族 Plains indigenous peoples

台湾の原住民族のうち、17世紀以降に中国大陸から移住してきた漢民族と婚姻や混住によって融合し、文化的に変容した民族を平埔族（平地に住む民族）と総称しています。かつては原住民族と公認されていませんでしたが、近年の民族アイデンティティーの再認識により公認された民族もあります。

檳榔樹（2023年、花蓮県光復郷太巴壠集落）

・作品の制作年代はおもに19世紀後半～20世紀初頭です。それ以外の制作年代のみ、個別に記載しました。
・本特集にかかる調査研究は、ザ・アール・サーニ・コレクション研究支援事業の助成を受けましたことを感謝とともに記します。



特集 フォルモサ（美しき島）の豊かな暮らし 台湾の原住民族の資料

令和8年（2026）3月9日発行 企画・執筆：猪熊兼樹、福島修、廣谷妃夏 撮影：藤瀬雄輔 翻訳：サミュエル・タン（以上、東京国立博物館）

デザイン・制作：アルテヴァン 印刷：ヤマジ 編集・発行：公益財団法人東京国立博物館 ©2026 東京国立博物館 Tokyo National Museum (TNM)